

15 ぼくのプレゼンテーション (障がい者)

5 (ナレーター) 皆さん、いかがお過ごしですか。福岡市がお送りする「こころのオルゴール」の時間です。今日は、見えにくい障がいとも言われる発達障がいについて考えてみます。

中学3年生の甲斐潤樹(かい・みつき)君は中学校に入学する前、先生たちにプレゼンテーションをしました。その様子を再現してみましよう。

10 【甲斐君役】小学校の時、学校生活がうまくいかなくて不登校になりました。環境を変えるために地域とは別の中学を選んだので、まず先生方に僕のことを理解していただきたいと思います。

15 僕は、得意なことと不得意なことの差が大きい広汎性発達障がいと診断されています。例えば、黒板や教科書の文字は動いているように見えるし、ノート書きは自分でも読めないほど乱れてしまいます。それに多くの人にとっては何でもない音が苦痛に感じてしまうため、騒がしいところにいるとかなり疲れます。

20 (ナレーター) 彼は自分の苦手なこと、配慮してほしいことを話しました。

25 【甲斐君役】授業中、パソコンを使わせてください。疲れた時は教室から出してください。一度にたくさんのことを言わないでください……。

(ナレーター)そして、一番言いたいことを訴えました。

30 【甲斐君役】僕は苦手なことが多いけれど、できることもたくさんあります。障がいがあるからしなくていいではなく、どうすればできるかを一緒に考えてください。

35 (ナレーター)こうして甲斐君の中学生活はスタートしました。授業中はノート代わりにパソコンで黒板の文字をメモします。周りが騒がしい時は雑音をカットするヘッドホンを使います。先生の声だけを聞くためにマイクをつけてもらうこともあります。学校の配慮や理解のある教師のお陰で、友達が彼を見る目も変わり、甲斐君の将来の夢は大きく広がりました。

40 【甲斐君役】生き物に関わる仕事がしたいです。海とか地学とかも興味があるので、そういう研究ができればいいなと思っています。

45 (ナレーター)みんなが同じではなくて、人と違うやり方や他の道具を使ってできるなら、それでもいいと甲斐君は考えています。その人にとって能力を發揮できる方法や、その場所を選べる社会になれば、障がいは障がいではなくなるはずです。